

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 京都府
都道府県 京都府
対象地域 京都府北部
対象品目 エダマメ（害虫の防除）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

京都府で生産を推進している黒大豆エダマメは、害虫による被害が大きく、その防除は化学農薬に依存している。そこで、殺虫剤効果試験を行い、効果の高い殺虫剤を使用することで化学農薬の使用量の低減を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				防除									
技術名				化学農薬使用									化学農薬の成分使用回数（慣行）：15回

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				防除									
技術名				化学農薬使用回数削減									ハスモンヨトウ、ハダニ類防除を削減し、化学農薬の成分使用回数を12回に削減

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	52	52	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	3	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬の成分使用回数 (地域の慣行) 【エダマメ】15回	▶ 効果の高い化学農薬による防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の成分使用回数（回）	15	▶ 12	ハスモンヨトウ・ハダニ剤 4 回→ 1 回に削減

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

京都府内の特産野菜の生産者へ、「京都府みどりの食料システム基本計画」に基づいた「みどりの食料システム戦略」の推進や、薬剤感受性の低下について問題提起しつつ、本事業で明らかになった効果の高い薬剤等の活用による環境負荷低減・省力化技術について、京都府や他関係機関一体となって、マニュアルを活用しながら技術普及と理解促進を進める。

関係者の役割

関係者名	京都府農林水産部農産課	京都府農林水産技術センター	京都府農業改良普及センター	その他機関
役割	みどりの食料システム戦略の推進	マニュアルに関する助言・技術協力	調査や展示ほの設置 マニュアル等を活用した技術指導	普及センター等と連携した技術指導